



# FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 71 号 2018.11.2

## FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## 十和田農場から

### 平成 30 年度北海道・東北地域大学附属農場協議会に参加して

8月23日から24日に「岩手大学附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢農場」において、北海道・東北地域大学附属農場協議会が参加校10大学42名の参加で開催されました。

北里大学からは、畔柳准教授と久保田(昭)主任が参加してきました。

28日午後から開催された農場協議会では、承合事項として「農機具運転（主にトラクタ）に関する実習について」の議題について事前に各大学から回答された内容について話し合いが進められました。

北里大学では八雲牧場、十和田農場共に農機具運転に関する実習は行っていませんが、実技形式で実習をしている大学が意外と多く、どのように行っているのか、安全対策はどうなっているのかなど、時間が足りないくらい多くの意見が出され、大変有意義な議題でした。

この後、教育研究集会が行われ、今回は初めての試みとして「いつもの実習、自慢の実習」発表題名について、各農場が発表をするという内容でした。

各農牧場でどのような実習が行われているのか、学生が興味を持っている実習のあ



### 協議会での発表風景

りかた、その中で目玉となる実習をあげてもらい討論をするかたちで行われました。

今年の教育研究集会発表の議題は各農場で共通しているのですが、実習内容は各々に特色がある実習や、地域との繋がりがあある実習など様々な発表がありました。

大学によりそれぞれ特徴のある実習が行われていることが解り、お互い興味を持って話し合いができ、非常に意味がある教育研究集会でした。

十和田農場は、キャンパス内に広大な敷地があり、そこに動物がいて、圃場を有することでいつでも数多くの実習が出来ることが、他大学には無い農場実習であること、自慢できる農場実習であることを認識することができました。他大学の方々から、北里大学はキャンパスと農場は位置的に近く、良い環境にありますねと言われました。

翌日は、岩手県屈指の観光牧場である小岩井農場の視察研修でした。

ここでは、観光牧場の視察ではなく、小岩井の歴史や古い牛舎から最新の搾乳牛舎な



などの見学、敷地内の山林、小岩井農場独自の圃場の活用方法などの説明を受け、感動して帰ってきました。今回の視察研修は、今後の大学附属農場のあり方にも参考になることが多く、大変勉強になりました。みなさんも時間があつたら是非、小岩井農場の見学コースに参加してみたいかがでしょうか、観光牧場ではない小岩井農場を垣間見ることが出来ますよ。

次回の北海道・東北地域大学附属農場協議会は、2020年に北海道大学が担当します。

小岩井農場の新しい搾乳牛舎

### レア・シープ研究会の総会が、獣医学部で開催される (8/25)

レア・シープ研究会 (以下、レア研) は、羊の希少種、マンクス・ロフトン種 (以下、マンクス) の保護・保存を目的として組織されました。

十和田農場がレア研の会員となったのは、7年前に日本獣医生命科学大学附属の富士アニマルファームから、初めてマンクスを譲り受けてからです。レア研では、マンクスの血統維持・増殖のために、マンクスの血統登録 (現在は出生登録) と個体管理 (移



写真 1. 黒瀬農場長の挨拶

動・死亡)を取りまとめています。十和田農場でも、マンクスの分娩や移動・死亡があると、レア研のお世話になっています。また、東京スピニングパーティというイベントで、農場のマンクスウールを販売するときに仲介していただき、広くスピナーや来客者の方々への北里大学のPRにも努めていただきました。

日頃からお世話になっているレア研ですが、総会は毎年東京で開催されるため、会員の方にお会いすることが出来ずにいました。そこで、今年は十和田で開催してはいかかと事務局の方に提案したところ、快諾していただき初の出張開催が実現しました。わざわざ遠くから来ていただくということで、十和田農場からはマンクスを食べる会を主催しました。

総会では、普段一堂に会することの無い全国の羊飼、スピナー、関係者の方々が、大いに議論を交わしました。また、大学での開催ということで、動物飼育管

理学研究室の山崎准教授から講演をしていただきました。その後は、農場の見学をし、皆さん待望の十和田のマンクスたちにご対面していただきました。

そして、十和田市の羊肉専門店「ラム善」に場所を移し、皆さんでマンクスを食しました。ここでは、前回開催したマンクスを食べる会でも行った食味アンケートにご協力していただきました。今回も前回と同様に、「ラム善」のご協力のもと、ニュージーランド産のサフォークのラム肉との食べ比べを行いました。どちらも好評でしたが、マンクスのほうが味が濃いという意見が多く聞かれました。この会食の中でも、たくさんの交流や情報交換が行われ、とても有意義な時間を提供することが出来ました。

今回の総会では、改めてマンクスの血統維持の重要性和貴重さを痛感しました。十和田農場では、引き続きマンクスの維持・増頭を図り、大学としてこの希少種の保護・保存に貢献していきたいと考えています。

### 平成 30 年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会に参加

9月13～14日に、明治大学駿河台キャンパスで全国大学附属農場協議会秋季全国協議会が開催され、FSC センター長、八雲牧場の西澤和也さん、十和田農場から久保田博昭主任が参加しました。



写真 2. ラム善社長のご挨拶



写真 3. マンクス肉 (左) とサフォーク肉 (右)

初日は、技術職員集会、教育研究シンポジウム、情報交換会、二日目は、現地視察でした。

技術職員集会では、各地域で研究集会を毎年やっている地域や東北、北海道の様に二年に一回など、地域により違うのを初めて知りました。

また、今回岩手大学が当番校で行われた北海道・東北地域大学附属農場協議会の様に発表するテーマを決めて各大学が発表するのは初めての試みで、各地域の大学の人も興味を示していた様です。

教育研究シンポジウムでは、「大型動物の遺伝子改変研究：疾患モデルブタの開発と利用」を、明治大学の長嶋先生が医療系大学と共同で研究していることを発表されました。内容は豚の卵子に疾患遺伝子を組み込み体外受精でキメラを作りそれを使った研究の様です。

次に、アスパラガスにおける1作限りの新たな栽培方法「採りっきり栽培」の魅力を明治大学の元木先生が発表されました。内容は、アスパラガスは本来収穫するのに最低3年かかる野菜でその間、収入0円です。それを1年で収穫する栽培方法考案したとして、農協、農家さんを集めて講演や実技等を行っている様ですごいと思いました。

最後に、「養液土耕栽培をICTで高度化」との演題で、同じく明治大学の小沢先生が発表されました。内容は、水耕栽培です。私が高校生だった40年前に将来作物は水耕栽培で作られるようになるだろうと言われていました。それが、近年、出来るようになり科学は進歩している実感しました。

今回、大変勉強になりました。

二日目の現地視察では複数のコースがあり、私・久保田と寶示戸センター長はBコース新宿御苑見学後築地市場見学、昼食、東京駅解散となりました。

今回、参加させていただき大変勉強になりました。私的には、田舎者のため人に酔ってしまうので都会には行きたくないのが本音です。

## 八雲牧場から

### 今季学生実習完了

7月の生物環境科学科を、皮切りに例年通り学生実習が開始されました。

今年度は、実習所の職員が不在であったため、近くのレストランに食事の提供を依頼するというこれまでにない方式で対応しましたが、概して好評でした。

また、動物資源科学科の最終日の明け方には北海道胆振東部地震が発生し北海道全域が停電となりました。その影響により道内の交通機関がすべて止まってしまったため、急遽フェリーでの学部への帰還となり、学生の皆さんには大変不自由をおかけしたと思います。それでも多くの学生の皆さんから食事、実習ともに良い評価をいただき、来年度に向けてさらに良くなるよう職員一同頑張っていきたいと思っております。

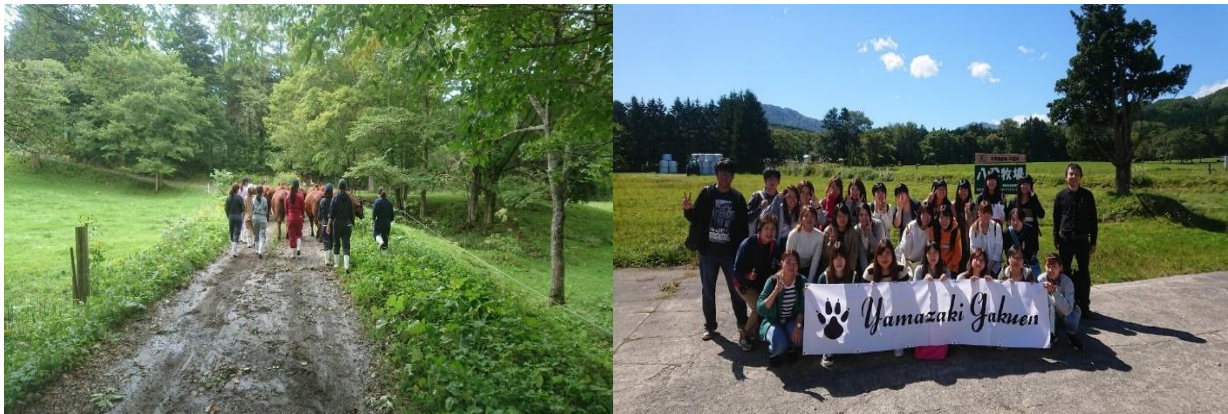
E科（獣医学部生物環境科学科）：2班

Z科（獣医学部動物資源科学科）：4班

M科（医学部医学科）：2班

ヤマザキ動物看護大学：1班

合計9班



### ヒグマ出没多数

今年は、ヒグマが多く出没する年でした。ここ数年多く見受けられるようになっていましたが、今年は特に全道的に多かったようです。八雲牧場も例外ではなくヒグマが多く出没しました。熊だけではなく牧草地にはエゾシカも出現するなど様々な野生動物を見ることが出来た夏でした。



### 八雲牧場を利用した研究活動

生物環境科学科環境情報学系から八雲牧場の草地を利用した研究を行うため田中教授、大出助教、学生4名が来場されました。

生憎の天候の中、草地の調査とドローンを利用した空撮が行われました。

(編集担当：畔柳 正)